

# CASBEE® 名古屋

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_名古屋2010年版

|使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya2010\_V1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中京テレビ放送新社屋	階数	地上12階、塔屋1階
建設地	名古屋市中村区平池町4丁目60番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	660 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2015年11月 予定	評価の実施日	2014年3月7日
敷地面積	7,121 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	4,312 m <sup>2</sup>	確認日	2014年3月7日
延床面積	27,322 m <sup>2</sup>	確認者	



ださい

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
①参照値 100%  
②建築物の取組み 84%  
③上記+②以外の 84%  
④上記+ 84%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 2  
LR1 エネルギー: 1  
LR2 資源・マテリアル: 1  
LR3 敷地外環境: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 4.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>社内外のコミュニケーションを誘発し、部局を超えた連携を強める「大部屋化」とします。</li> <li>番組・報道活動に必要な環境を機能的に集積した階構成とします。</li> <li>東日本大震災の教訓を生かした、「災害に強く、信頼性の高い局舎とBCP対策」とします。</li> <li>環境に配慮し、経済性に優れた局舎とします。</li> </ol>	<p><b>その他</b></p> <p>災害対策として、被災時の帰宅困難者を受け入れを想定したスペースを確保します。また、敷地東側の公園に向けてデジタルサインを設置し被災者への情報の発信を行います。</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>居室の界壁の遮音性能の向上、細かな空調・照明のゾーンごとの制御とし、室内環境の向上を図ります。また、外壁にP C板、開口部に高性能Low-Eガラスの採用、庇・ルーバー等で日射遮蔽を行う等外皮性能の向上も図ります。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>コミュニケーションを誘発し、部局を超えた連携を強めるため、各部局間で仕切りのではなく、大部屋化とします。また、事務スペースはほぼ全てOA化することで、事務スペースのレイアウト変更フレキシブルに対応</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>外壁P C板裏に断熱材を施し、開口部には高性能Low-Eガラスを採用することで外皮性能を向上させ、また、庇・ルーバー等での日射遮蔽を行うことで外部からの熱負荷を低減し、省エネルギー化を図ります。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>消火剤にはハロン消火剤を用いず、オゾン層破壊係数が0、地球温暖化係数が低いものを使用することで地球温暖化抑制に配慮した計画とします。</p>
	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>北面道路から5m以上セットバックして建物を配置し、全面の歩道と同じ仕様とすることで街全体と統一感を図ります。また、駐車場の壁面を緑化することで景観に配慮した計画とします。</p>
	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>大型のバス等も利用可能なように、十分な広さの乗り入れ、駐車スペースを確保し、外部からの見学者等への配慮を行います。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される